

都立専門高校改編基本構想検討委員会 第6回 会議要旨

- 1 開催日時 平成26年7月17日(木) 10:00~12:00
- 2 会場 都庁第二本庁舎 30階 教育委員会室
- 3 出席者 巽委員長、高野副委員長、米山委員、藪長委員、善養寺委員、川合委員、柳沢委員、志村委員、徳田委員、加藤秀次委員、丸山委員、浦部委員、武田委員、阿久津委員、早川委員、加藤裕之委員、金子委員、出張委員

4 会議要旨

(1) 第5回会議要旨の確認

- ・資料の内容で第5回会議要旨として決定としたい。

(2) 都立専門高校改編基本構想検討委員会報告書(案)の検討

<現状と課題について>

- ・専門高校の中途退学率について、繰り返し記載されており、表記方法を改善すべきである。
- ・倍率の高い学校では、希望した学校に入れなかった状況がある。低い倍率だけでなく、高い倍率の是正も必要と考える。

<全体及び各科の改善の方向性>

- ・専門高校の志望倍率を普通科高校と比較する必要性がないと感じる。
- ・中退率については、他の専門高校との比較を示した方が課題が見えてくる。
- ・学科の「再編」と「増設」などの用語の統一をすべきである。
- ・「報告書の作成能力」は少し個別具体になりすぎている。自分の考えを整理して表現する力を育成するイメージで記載を見直すべきである。
- ・「適性検査への対応」は何かテクニカルな指導というイメージがあり、少し誤解されるおそれがある。
- ・「生産、加工、販売を一体的に行う事業の拡大」とは、農水省で「六次産業化」と表現されており、その言葉を入れてほしい。
- ・中学の指導として、普通科に行けないから商業、工業を選択しなさい、ということは、あり得ると思われる。成績によって高校を決める選択肢が限られる場合に、やむを得ないで入学している生徒の数も不本意入学に入っているとすると、それを解決するのは難しいのではないかと考える。
- ・倍率が高くなり過ぎると、専門高校での学習内容が家業に直接関係する人がその専門高校に入学しにくい状況もあると考える。

- 高校を卒業したら絶対就職したいというニーズと、自分の興味・関心のある専門性や先進的なものを学んで可能性を広げたいというニーズは意味が違う。高校のポジショニングを明確にすることで、専門高校の魅力を高めていくべきである。
- 各専門高校がどういう方向に強い学校なのか中学校側に伝わっていない。中学校へ専門高校の役割を適切に説明すべきである。

(以上)